

1. 日 時 : 11月5日(金)17:15 - 18:15
2. 場 所 : JXビル 2F 講堂
3. 出席者数 : 229名
4. 主な質疑内容:

- 本資料には、将来見通しに関する記述が含まれています。巻末に注意事項を記載しています。 -

Q . 下期の業績見通しについて、石油製品・石油化学品の-marginおよび銅価の前提をどのように織り込んでいるか？

A . 下期の石油製品に関して、白油4品のmarginは、5月に公表したレベルを見直していない。下期には石油各社のシャットダウン・減産などが予定されており、加えて足元の在庫レベルも低水準であり、ここまでは、上期同様に、比較的良いmargin水準が継続している。したがって、通期の見通しの前提は、足元の需給環境に鑑みれば、やや固めである。

石油化学品については、足元、市況が上昇している。パラキシレンの下期想定は、ドバイ原油とのスプレッドを480ドル/トンで見ているので、足元の600 - 640ドル/トンの水準が続けば、プラス影響がある。パラキシレンは100ドル/トンのスプレッドの変化で、月間15億円程度の損益影響がある。

下期の銅価も320セント/ポンドを業績見通しの前提としているが、足元は380 - 390セント/ポンドである。銅価は10セント/ポンドの上昇で、下期10億円のプラス影響がある。

概して言えば、足元の市況と比較すると、業績の見通しの前提は、少し固めである。しかしながら、原油代が上昇基調にあり、marginが縮小するリスクもあるため、予断を許さない。また、円高も当社にとって必ずしも良い面だけではないことを留意いただきたい。

Q . 具体的な白油4品のmarginの水準は？

A . 業績の前提としている下期の水準は、上期よりは若干低い水準である。上期を1Q(4-6月)、2Q(7-9月)と分けてみると、2Q(7-9月)が良かった。下期は概ね1Qの水準で見ている。

Q . 追加の20万バレル/日の削減の具体的な内容を公表できる時期はいつか？また、シナジー効果800億円について、上積みの可能性があるか？

A . 20万バレル/日の能力削減は、2014年3月を期限としており、3年以上の時間がある。今後の石油需要や油種構成の変化などを考慮のうえ、慎重に判断する。また、2012年度に統合シナジー効果の800億円を達成するという目標は、決して楽なものではない。当面は、上積みよりも早期の目標達成に向け、愚直に努力していく。

Q . 稼働率が定修除きで90%程度というのは、フル稼働といえる水準か？

A . 足元の稼働率は93%近い。操業上の小さなトラブルなども勘案すると、実質的にはフル稼働だ。

Q . 石油開発の経常利益が上期 321 億円、通期で 460 億円ということで下期が 140 億円程度となっている。下期利益が減る要因は？

A . 数量減と円高の影響により、売上の減少が 100 億円程度ある。これに加え、コスト 50 億円程度が、下期によっている。

Q . カセロネス、ケチュアの銅鉱山プロジェクトの進捗は？

A . カセロネスは 2013 年から 28 年間にわたる大型プロジェクトであり、現在主要な機械の発注については契約した。電力契約などのインフラの整備も順調に進んでいる。プロジェクト・ファイナンスに関しても、順調に取り進めている。同鉱山が生産開始すると、現在約 20%の自山鉱比率が 50%まで上がることとなる。ケチュアは、2014 年からの 17 年間のプロジェクトだが、現在、経済性調査中である。同鉱山が生産開始すると、更に自山鉱比率が 10%上昇し、60%程度まで高まる。中期経営計画中の利益貢献はないものの、その後大いに期待できる。

Q . 説明の中で、足元の増資の可能性については否定したものの、株価は低水準だ。利益が上ぶれし、キャッシュフローが想定以上であれば、自社株買いを行わないか？また、配当は上期 7.5 円、通期 15 円の予定との事だが、業績によっては増配を考えるか？

A . 現状は、中期経営計画でお示しのとおり、有利子負債を削減し、財務体質を改善することが優先課題だ。今年度に自社株買いを行うことはない。配当は、期中であり、今は何とも申し上げようはない。ただ、年間配当金 15 円はかなり重みがある水準と考えている。配当性向は、負のれんを除けば 40%程度、配当利回りは 3%程度である。

Q . 石油精製販売事業の通期業績に、在庫評価損 350 億円を見込むが、どのような前提か？

A . 上期で約 350 億円の在庫評価損が発生している。この中には急激に円高が進んだことにより、低価法で織り込んだものが 130 - 140 億円含まれる。すなわち、概ね 80 円くらいの水準まで円高が織り込まれている。下期の想定は、為替 80 円/ドル、また原油 80 ドル/バーレルであり、その前提では大きな在庫評価損益は発生しないと考えている。

以 上

本資料には、将来見通しに関する記述が含まれています。これらの将来に関する記述は、「考えます」、「期待します」、「見込みます」、「計画します」、「意図します」、「はずです」、「するつもりです」、「予測します」、「将来」、その他、これらと同様の表現、または特に「戦略」、「目標」、「計画」、「意図」などに関する説明という形で示されています。多くの要因によって、本資料に述べられている「将来に関する記述」と大きく異なる実際の結果が、将来発生する可能性があります。かかる要因としては、(1)マクロ経済の状況またはエネルギー・資源・素材業界における会社の競争環境などの業界の一般的な状況、(2)規制、訴訟に関する事項およびリスク、(3)法制上の変化、(4)税法その他の法律の改正、一般的経済状況の変化が及ぼす影響などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。